穴があったら入りたい

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
穴があったら入りたい

【Ｎコード】
Ｎ０２６４Ｂ

【作者名】
並盛りライス

【あらすじ】
ある日、目が覚めると腹に穴が開くという奇病にかかっていた。
穴が開いているというだけで、痛くも痒くもないのだが…

朝起きたら、体の真ん中に穴が空いていた。

仕方がないので、手を突っ込んでみたが、向側から出てくるはずの手は、どこか別の所に出てしまったようだ。

私は服を着ておけば問題ないよね、と思い服を着てみた。

しかし、服の上にも同じように穴ができてしまったから、困ってしまった。

生活するうえで不便なことはないが、なんだか胸がスースーする感じで落ち着かないし、どこか恥ずかしい。

誰にも見られたくないので、布団を被って隠れたが、布団にも同じように穴が空いていた。

何を食べても、その穴から出てきそうで食欲があまり無かった。

朝御飯に、さつま芋の入ったパンをかじった、穴からは何も出てこなかった。

それはそうだろう。もし、食べた物が全て出てくるなら、昨日食べた野菜カレーが出てくるはずだ。

会社には何て言おうか…家族には…。

独り暮らしだったのは、不幸中の幸いだ。

病院に行くにしても、一旦町中を歩かなければいけないし、健康保険が適用されるのかも疑問だ。

私は、そっと穴の前に手を当ててみた。
手には大きな穴が空いて、離すと元通りに塞がる。

体をくねらせても、器用に穴は避けたり捻れたりするだけでなくならない。

体に穴が空く病気なんて聞いたことはなかった。家庭の医学を押し入れから出してきた、改訂版のヤツだ。

【心性孔口拡門症】
シンセイコウコクカクモンショウ

精神的に、酷く落ち込んだり、空虚な気持ちになると、ポッカリ胸に穴が開く病気。その気持ちの度合いによってどんどん拡大していき、最後は体が無くなる奇病。

参考→心性症、

…あった。

やっぱり病院に行った方がいいのだろうか。

とりあえず、一日様子を見てみよう。

電話で会社に、休みたいのだけど…というと驚かれた。

穴が空いている以外には、困ったことは何もないので、ベットで体を休めても意味はないのかもしれない。
精神的な原因に思い当たることはない。

痛みもかゆみもない、穴が空いているだけだ。

精神的なストレスといわれても、特に悩んでいる事なんてない。

それなのに、この穴は塞がらない。

穴を覗くと、暗くて深い闇が広がっていて、吸い込まれてしまいそうだ。

仕事は順調だし、穴が空いている事を除けば健康だ。
彼氏との仲も悪くないし、人間関係もスムーズだと思う。

ただ…ただ一つの悩みと言えば、最近2キロ位、太ったことだ。

運動をあまりしなかったのと、外食が多かったのとで、体重が増えたのは悩みの一つだ。

服がキツイとまではいかないが、見る人が見れば、特に彼氏である満がみれば、一目でバレてしまう。

穴の上からでは分からないだろうけど…。
そんなに気にしていないつもりだったけど、ストレスといえばコレぐらいしか思い付かない。

やっぱり病院に行こうと思ったのは、お昼を食べた後で、化粧やなんやらをしている内に二時くらいになっていた。
穴は相変わらず服の上に開いている。
外を歩いていると、誰もが奇怪なモノを見るような目をしてコチラを見ていた。
こんな奇病があることなんて、あたし自身も知らなかったのだから当然だろう。

やっと病院についたあたしは、急いで建物の中に逃げ込もうとした。
しかし、そこには本日休業という張り紙が貼ってある。
私は、肩を落として来た道を引き返ろうとした。
すると、来る時に集めた人達が呼んだのか野次馬達が大勢待ち構えていた。
群衆の視線はやはり、あたしの腹の穴に集まっていた。
あまりに多くの視線が集まっているのと、気にしているお腹を見られていると思うと恥ずかしくて顔から火が出そうだ。

穴があったら入りたい。

そう思った。あたしは視線を逃れる為に自ら穴の中に頭を入れた。

すると中は広く、体全体が入るぐらいに大きな穴になっていた。

中は、暑くもなく寒くもなくて快適な温度で、居心地が良さそうに感じられた。

そして何より、誰の視線も気にすることなく過ごせると思うと、私は迷わず穴の中へ体を預けた。

数日の間、穴の中に居たがお腹も減らなければ、トイレにも行かなくてすむことが分かった。

こんな快適な穴ならば、私はもう二度と外の世界に行くものか。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0264b/

穴があったら入りたい

2010年11月2日03時47分発行